

にと

二兎追いて
両の手離す
冥徳の朝
明けゆく

はるみ

ほととぎす

時鳥の声が懐かし
山の里
川辺に糸をし
何を釣る

松本松陰

野に咲く花まもなく
息づきはじめ
春と共に背伸びする

松本松陰

音もなく

降り積む雪に

夢託し

希望なき身に

サラサラとして

はるみ



リハビリ作品展

令和八年春一番の号